

認定NPO法人かものはしプロジェクト
2017年度年次報告書

2017 2018

Kamonohashi-project Annual Report

これからも、
子どもが
売られない
世界をつくる。

អង្គការម៉ោង កាម៉ូណាស៊ី
INTERNATIONAL NPO



子どもが売られない世界をつくる
認定NPO法人かものはしプロジェクト

16年間、ありがとう。

カンボジアは、新しい旅路へ。

カンボジア事業部の自立。
そして、新しいミッションの
実現へ。

2002年の団体設立から16年。
当時子どもが売られる問題の状況
が、もつともひどいと言われたカン
ボジア。この問題を解決したいと、
多くの人が手を取り合って行動し
た結果、今やこの国で売春宿に
子どもが売られることは、ほとん
どなくなりました。それに伴い、
2018年3月をもってかものはし
として「子どもが売られる問題」を
なくすためのカンボジア事業を終
了することができました。そして、
カンボジア事業は2018年4月
よりかものはしから自立し、NPO
法人SUSUとしてのスタートを
切りました。ここまで多くの時間

がかかりましたが、この景色を見
ることができたのは、諦めずに長い
目で見守ってくださった皆さまが
いたから。日本だけではなく、その
他世界中にいる「この問題をなく
したい」と取り組む多くの方が、
様々な立場で行動して支えてくだ
さったからこそ、ここまで来ること
ができました。これまで関わって
くださった全ての方に、そしてそのあ
たにかいご支援に、心より感謝申
し上げます。本当にありがとうご
ざいました。

これからカンボジア事業部は、カ
ンボジアの女性たちがワクワクと
前向きに自分の人生を生ぎられる
社会をつくるという新しいミッ
ション実現のため、新法人として活
動を続けていきます。SUSUと
かものはしは、お互いのミッション
を追い求めるために別団体となり
ましたが、根底に流れる志や姿勢、
マインドは同じです。これからも応
援くださる皆さまに支えられなが
ら、それぞれのミッション実現のた
め、兄弟のようにお互いを応援し、
刺激しあい、必要なときは手を貸
しあいながら活動していきます。



カンボジアでの16年間の軌跡

Kamonohashi's
History in Cambodia
2002-2018

16 years
SINCE 2002

PC SCHOOL & IT
2002~2005年

PCスクールで子どもたちの 経済的自立を目指す。

都市部で職業訓練を行い、子どもたちが売られるリスクを減らすため、孤児院の子どもたちを対象としたIT事業/PCスクールを立ち上げる。

KAMONOHASHI
PROJECT STARTED
2002年

かものはしプロジェクトの はじまり。

村田・本木・青木が出会い、「この世界から子どもが売られる問題をなくしたい」という村田の強い想いに動かされ、学生団体を立ち上げる。

2005

2004

2003

2002

IT事業&PCスクール(IT事業は2011年まで継続)

2005年

売られてしまう危険度の 高い農村支援へ。

都市部での支援から、より子どもが売られてしまう危険性が高い層＝農村部の貧困層への支援にシフトすることを決定。

2003年

子どもが売られない世界を カンボジアで。

子どもが売られる問題の被害が当時最もひどかった、カンボジアで事業を行うと決め、事業モデルを立案。

大学生だった村田が

だまされて売られてしまう子どもに出会い、「こんなこと、絶対あってはならない」という想いから始まったかものはしプロジェクト。

皆さまのあたたかいご支援のもと、これまでたくさんのを積み重ねて、カンボジアで「子どもが売られる問題」はほとんどなくなりました。

2013年

給食と託児所を スタート!

1日中元気に仕事ができるよう、栄養たっぷりの給食と、働きながら結婚・出産できるよう託児所をスタート。

STORE OPENED!

2011年

いぐさ商品の直営店を オープン!

第1号となるいぐさ商品の直営店をオープン!7年経った今、直営店はカンボジア国内で3店舗に。

LEAP PROJECT

2009~2015年

絶対に子どもを買わない。 警察支援開始。

警察が性犯罪者を取り締まる能力は大幅に向上。6年間の支援を経て、2015年にプロジェクトが完了。

Community factory
started with



38 girls

2006年

農村で大人に仕事を、 子どもに教育を。

職業訓練と、い草を使ったおみやげ品の製造を行うコミュニティファクトリーを現地NGOと共同で立ち上げ。初年度は38人の女性たちを迎える。

2013

2012

2011

2010

2009

2008

2007

2006

コミュニティファクトリー経営

警察支援

孤児院支援

Highlight of Cambodia
in 2012

34% → 18%

カンボジアで国が定める貧困ライン以下の人口割合が、2008年の34%から、2012年の18%へ減少*1。

*1 <http://data.worldbank.org/indicator/SI.POV.NAGP?locations=KH>

2009~2014年

売られるリスクから 子どもを守る、孤児院支援。

毎年50人の子どもを継続的に支援することができ、当初予定通り5年で支援を完了。

2008年

独自のコミュニティファクトリー を立ち上げる。

現地NGOとの方針の違い(かものはしが目指すのは、単なる援助ではなく自立支援)から、独自運営のファクトリーを新たに立ち上げる。



BRAND NEW
OWN FACTORY

これからも、
子どもが
売られない
世界をつくる。

For a world without child sex trafficking and sexual exploitation.

かものしから自立を果たした
カンボジア事業部は、
NPO法人SUSUとして新しいミッションへ。
そして、かものしはこれまでの
カンボジアでの経験を糧に、
「子どもが売られない世界」をインドでも
実現するために、
これからも活動を続けていきます。

2018年

かものしからの 自立を実現

「カンボジアの女性たちの
人生の旅を応援する」という新
しいミッションに向かって。

2016年

デザインを一新し 新ブランドの立ち上げ。

商品は進化し続け、人生の旅を
テーマにしたSALASUSUへ。

Community factory has



18 alumni

2015年

カンボジア事業の 自立を決断

生きる力を身につける、ライフスキ
ルトレーニングに力を入れ始め
る。初の卒業生を輩出！これまで
に輩出した卒業生は18人に。

2018

2017

2016

2015

2014

コミュニティファクトリー経営

警察支援

孤児院支援

2018年

コミュニティファクトリーが 10周年を迎える

10TH
ANNIVERSARY

2016年

ファクトリーで受け入れた 女性が200人を超える

これまでにコミュニティファクトリー
で受け入れた女性は241人以上に。

Community factory employed



241 girls

Highlight of Cambodia
in 2015

30% → 2.2%

売春宿にいる18歳未満が 大幅に減少

人身売買解決を目指す国際NGO、International Justice Mission (IJM) による調査結果^(※2)によると、2000年前後には、売春宿に従事させられている18歳未満は30%^(※3)と言われていたが、2015年調査では性産業施設287カ所にいる2,104人のうち、18歳未満は2.2%、15歳以下は0.1%に。これらの結果は、かものしが行った現場調査、警察や被害者を受け入れるシェルターへのヒアリングとも一致。国際機関・NGO・政府の人身売買に関する様々な取り組みが成果を出したこと、またカンボジアの国全体が発展したことにより、大きく問題解決が進んだ。

^{※2} <https://www.ijm.org/sites/default/files/download/cambodia/Results-Summary.pdf>
^{※3} Dave Shaw (2013) "COMMERCIAL SEXUAL EXPLOITATION OF CHILDREN IN CAMBODIA: A venue-based application of time-space sampling to measure prevalence in Phnom Penh, Siem Reap and Sihanoukville"

私が見てきた カンボジアと かものはしの笑顔

Natsuki Yasuda's Report

高校生の時から約15年間、カンボジア取材し続ける
フォトジャーナリストの安田菜津紀さん。
2011年にカンボジアでかものはしの活動を
初めて取材いただいてから、
これまでを振り返ってレポートいただきました。

フォトジャーナリスト
安田 菜津紀



1987年神奈川県生まれ。Dialogue for People(ダイア
ログフォーピープル)所属フォトジャーナリスト。16歳の
とき、「国境なき子どもたち」友刊のレポーターとしてカンボ
ジアで貧困にさらされる子どもたち取材。現在、カンボジ
アを中心に、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で貧困
や災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を
中心に、被災地を記録し続けている。「HIVと共に生まれる
-ウガンダのエイズ孤児たち-」で第8回取洋之助写真
賞受賞。著書に『写真で伝える仕事-世界の子どもたちと向
き合って-』(日本写真企画)、他。上智大学卒。現在、TBSテ
レビ『サンデーモーニング』にコメンテーターとして出演中。

かものはしが歩んだ 月日がもたらしたものの

2003年夏、初めてカンボジアを訪れたときのことだった。当時高校生だった私は、自立支援施設に暮らす同世代の女の子たちと時間を過ごしていた。片言の英語やクメール語、会話帳を駆使しながら、たわいなし話を重ね、互いが距離を縮めていった。とりわけ盛り上がったのは恋愛話だった。「恋人はいるの?」「誰がかわいいと思う?」と少女たちははいたずらっぽく笑っていた。私もつられてはしゃいでいた。ふと見ると、ある女の子がいつの間にかその輪から外れ、ぼつんと一人庭の隅に座っていた。「さっきまで一緒に話していたのに、どうしたのさ?」「一瞬彼女の様子が気になったもの、その時は他の少女たちとの会話に夢中だった。」

後になって彼女が、人身売買の被害に遭い、売春を強要されていたことを知った。「彼女は自分なんて汚れているんだって思い込んで、好きな人ができて近づくけないの」とソーシャル・

も仕事をする機会もなかった「自分なんて」と引込み思案だったという女性も少なくなかった。彼女たちがファクトリーで積み重ねてきた時間は、「自分でもできた」から、「自分だからできた」に変わっていく過程そのものだった。

未舗装の小道を走り、ファクトリーで働く女性の家庭にもお邪魔したことがある。小さな高床式の家に家族が肩を寄せ合うように住んでいる様子からすると、決して暮らしが楽ではないことがうかがえた。「学校に行っていないから、同じ世代の友達は少なかったの。でも実際にファクトリーで働いて、お昼休みに皆で話す時間がとても幸せ」と語ってくれた彼女の輝いた顔が今でも心に刻まれている。仕事を続けるということは、単に収入を得るというだけではなく、これまで貧困によって断たれてしまっていた社会とのつながりを取り戻していくことでもあった。そんな喜びを積み重ねながら、彼女たちは確実に成長し続けている。

このファクトリーの立ち上げには、私たちの知らない葛藤や苦難が数え



ワーカーさんがそつと教えてくれた。あの時、どんな言葉を彼女にかけるべきだったのだろうか。もつと踏み込んでいえば、どうすれば彼女が巻き込まれてしまった人身売買や児童買春の問題を解決することができるのだろうか。答えにたどり着けないまま、ただただもどかしさと、自分の無知、無力さに対する怒りのような感情だけが募っていた。

「かものはしプロジェクト」の活動を知ったのは、大学生の時だった。子どもたちが売られないために、まず女性たちの職を作りだそうと、具体的な実践を積み重ねている団体だという。それも世代の近い人たちが立ち上げた団体だと聞き、いつか必ず現地にお邪魔したいと思っていた。

縁あって何うことが叶ったファクトリーでは、女性たちが凛とした眼差しで手元の細かな作業に打ち込んでいた。ミシンや染色、品質チェックという役割分担はもちろん、経験を積んだ女性たちが次世代をしっかりと育てていた。リーダーとして現場に立つ彼女たちも、最初から何もかもができたわけではない。これまで学ぶ機会

切れないほどあったはずだ。現場や「かものはしプロジェクト」のスタッフさんたちの尽力はもちろん、支援に携わった方々、あるいは彼女たちの商品を使い続けていた方々、どれほどの人の力が重なり合ってきたのだろうか。

この16年間で、人身売買の被害に遭い、熾烈な暴力を受ける子どもたちの数は確実に減りつつある。ファクトリーの歩みは、「小さくてもそれぞれが役割を持ち寄ることで、社会が少しずつ、けれども確実に変わっていくのだ」という何よりの証だったのではないだろうか。だからこそ独立後もきつと、互いに手を携え、子どもたち、女性たちの未来を築く更なる輪を広げることができるはずだ。



クメール語で女性たちとコミュニケーションを取りながら撮影する安田さん。カンボジア事業自立のタイミングに合わせてファクトリーまで取材にお越しいただいた。



私たちの力は小さいけれど、決して無力ではない。



共同代表
村田 早耶香
Sayaka Murata

泣いてしまいそうなのであまり考えないようにしてきましたが、ついにかものはしがカンボジアから離れる日がやってきました。2002年に団体を設立したとき、「この人たちとなら社会を変えられるかもしれない」とワクワクしたことを覚えています。現実には甘くなく、何度やめたいと思っただかわかりません。それでも活動を前に進めていく中で、ファクトリーで最貧困家庭の女性たちの生活状況が改善したり、警察訓練支援によって加害者の逮捕数が増

えていきました。様々な方々がカンボジアの子どもが売られる問題をなくすために動いた結果、5歳や6歳の子どもまでが売られていたカンボジアで、売春宿に売られる子どもが激減しました。

私たちの力は小さいけれど、決して無力ではないと感じています。16年間、カンボジアを支援してこられたのは、熱意と構想しかなかった初期の頃からいままでの間、一緒に汗を流し知恵を貸してくださった方々、活動資金をご支援くださった方々のおかげです。感謝しありません。

長年取り組んできたカンボジアから離れることは苦渋の決断でしたが、「この数年のカンボジアメンバリーの成長は目覚ましく、「もう大丈夫」と安心できました。私にできることは、自立していったカンボジア事業を見守り、できるサポートをしながら、自分たちの下した決断を良いものにしていくことだと思っています。ただただ、前を向いて邁進していくのみです。

たくさんの方の行動が、子どもが売られない社会をつくった。



共同代表
本木 恵介
Keisuke Motoki

カンボジア事業をNPO法人SUSSUに譲渡した日の帰り道、寂しい気持ちになりました。ひとつの時代が終わったような感覚です。大学3年生のときかものはしを設立し、初めてカンボジアに行きました。村にあるオフィスに住み込み、地元住民たちと酒盛りをした日々。スタッフとは何度も喧嘩しました。大口を叩きながら何も達成できていない自分に絶望したこともありましたが、かものはしのミッションに共感してくれた方々がさまざまな形で行動してくださったことが結果し、カンボジアでは子どもが売られる件数は激減しました。みなさんの想いが、子どもたちにとって辛く冷たい場所を減らし、温かみのある優しい社会を築いたのです。すべての人に、感謝

の気持ちをお伝えしたいです。

カンボジアではミッションを達成したと判断し、かものはしは経営資源をインド事業に集中することを決めました。それに伴い、理事会ではカンボジア事業部が自立するまでのマイルストーンを設定しました。達成できなければ事業を大幅縮小、または閉鎖。厳しい目標設定でしたが、カンボジアメンバーの死ぬ気の頑張り、多くの方々の応援のおかげで、無事に目標を達成し自立することができました。とは言え、まだ走り出したばかりの状態です。目指すべきところにたどり着くまでには今まで以上の努力を必要とします。NPO法人SUSSUの理事として、これからも責任感を持って取り組んでいきたいと思えます。

設立から16年。 カンボジアの

自立に Looking back on the past 16 years

向けての想い

SINCE 2002

僕たちのカンボジアでの旅は続いていきます。



共同代表
青木 健太
Kenji Aoki

2018年4月1日、カンボジア事業部はかものはしから自立しました。最後の日までバタバタでしたが、たくさんの方に支えられ、笑いあり涙あり、これまでのかものはしでの日々が凝縮されたような1日でした。振り返ると、本当に多くのことがありました。ファクトリーにこない女性の家にバイクで駆けつけカウンセリングをしたり、一人で抱え込みすぎる僕をチームメンバーが支えてくれたり、一緒に働く人たちが自分の夢に気づき、成長していく姿に喜びを感じたり。

特にカンボジアに駐在したこの9年間、向き合うことになったのは自分自身の弱さです。変化の激しいカンボジアで、自己を管理し、チームを作りながら問題を解決することに悪戦苦闘してきました。自分にもっと力があればと悔やんだ瞬間もたくさんあります。

しかしこの苦勞こそ、村の女性たちがファクトリーを卒業し都会で働く中で日々味わっているものなのだと気づきました。そうした苦勞を乗り越える力をライフスキルと名づけ、徹底的にトレーニングを作りこみ、生まれたプログラムは、今まさにカンボジア全体に広がっています。

この旅を続けることができたのも、活動に共感し寄り添ってくれた皆さま、ここまで共に走ってきたカンボジア人スタッフ、ファクトリーで働く女性たち一人ひとりのおかげです。これまで伴走していただき、本当にありがとうございました。新しいスタートを切った僕たちを、これからも応援いただくと嬉しいのです。

For a world without child sex trafficking
and sexual exploitation.

Kamonohashi in

Cambodia

2017-2018

2017年度のカンボジア事業部

カンボジア女性たちの、 人生の旅を応援する。

新しいミッションに向けて
NPO法人SUSUとしてのスタート

SALASUSU



2015年度に自立を決めてから3年間、体制づくりや資金調達を進めてきました。様々な方からのサポートのおかげで、2018年4月、かものはしから自立することができました。新しい法人名にもなっている「SUSU」には「人生の旅を応援する」という意味が込められています。工房で働く作り手であり、また学校の生徒でもあるカンボジア人女性たちは、ライフスキルトレーニングを受けながらものづくりを学び、成長し、やがてそれぞれの未来へと旅立って行きます。「SUSU」がんばって！とお互いを声かけあいながら、いきいきと、明るい未来を信じて頑張ることを学ぶ女性たちを、カンボジアで、世界で、どんどん増やしていきたい。そのために、これから出会うたくさんの方とも支えあいながら進んでいきます。

2017年度はカンボジア事業部にとって、さまざまな意味でひとつの旅を終え、新たな旅に出発する節目となった一年でした。3月には自分たちの存在意義を問い直し、工房の女性たちがつくった商品の、大幅なブランドリニューアルを行うことを決めました。また、ライフスキルトレーニングは、ファクトリー外部でも評価され、カンボジアの企業やNGOに向けて提供されはじめました。ようやく数年間は自走できる見込みが立ちました。が、既存の事業を継続するために独立したわけではありません。目的はあくまでも、カンボジアで、世界より大きなインパクトを出すこと。その実現のためこれからも全力で取り組んでいきます。

いまでは、外部の団体にも
ノウハウを提供できる
ようになりました。
人生を前向きに
切り拓いていく人の輪が、
少しずつ広がっています。

知識を身に付けるだけでは
なく、振る舞いを。

ライフスキルとは、簡単にいうと
「頑張るための技術」です。日本では、義務教育や日常生活の中で、物事に取り組む姿勢や適切な人間関係を築くための振る舞いを自然と身につける機会が多くありますが、カンボジアにはそうした機会がないまま社会に出る女性がたくさんいます。その結果、条件のいい職場に就職できても長続きせず、貧困などの負のサイクルから抜け出せなくなってしまうのです。

私たちは、この頑張るための技

職業訓練センターの講師に トレーナー研修を提供

工場で働く女性たちが目に見えて成長してきたため、ライフスキルトレーニングは外部の団体からも注目されるようになりました。カンボジアにおいて、こうしたライフスキルを教えられるマインドを持った人材は稀少です。需要の高まりに応じて、ライフスキルを教育できるトレーナーの育成にも取り組むはじまりました。トレーナーには、安心安全な場をつくることの重要性や、誰もが学び成長していく存在であることを教えています。

そして今回、工場の作り手からもトレーナー研修を受けたという声



JICAの皆さまとともに、カンボジアの労働省にライフスキルトレーニングを紹介した時の様子。

「頑張るための技術」を身につける ライフスキルトレーニング。

Life skill training

トレーニングを実施する度に
スタッフ同士で振り返りをして
より良いものにしていきます!



ががありました。そのうちの1人、
イアップは私たちがライフスキル
トレーニングを始めるきっかけと
なった女性。初期の頃、高い縫製の
スキルを認められて就職したにも
関わらず、住む場所がうまく見つ
からないと、たった4日で就職先
からファクトリーに戻ってきてし
まいました。

彼女は黙々と仕事に取り組む職
人肌タイプで、前に出て手を上げ
ることは多くなかったため、彼女が
このトレーナー研修に手を挙げた



術を「問題解決」「自信」「人と関係
を作る力」「自己管理」「職業倫理」
「基礎リテラシー」の6つに分解
し、工場で働く女性たちのトレ
ーニングを行ってきました。

人は正しい知識を得るだけでは
変わりません。大事なものは、学ん
だ知識を自分のものとし、いかに
実際の職場や生活で活用できる
か。そのため、トレーニングは一斉
授業型ではなく、ワークやゲーム
をベースにし、全員が参加型、実践
型で取り組めるよう工夫していま
す。例えば、仲間の良いところを
見つけて伝えるビンゴゲーム。良
いところを伝えた側も伝えられた
側も相手に好印象を抱き、お互い
に自己肯定感を高めます。職場の
人間関係はこうした積み重ねに
よって好転させられることを学ん
でもらうのです。プログラムは、
リーダーシップ研修や組織開発を
行う株式会社ビーブルフォーカ
ス・コンサルティングさまをはじめ、
日本の団体や専門家の協力を
得て開発してきました。

ことに、私たちは驚きました。イ
アップはその理由を、こう話してく
れました。「カンボジア人スタッフが
が楽しそうに研修を受けている様
子を見て、私もと思いました。参加
することで成長できると思いまし
た。」実際にライフスキルトレ
ーニングを受け成長し、今度は教える
側になってみたい。自分のやりたい
ことを見つけてチャレンジする姿を
見て、とても嬉しく思いました。こ
れから少しずつ、トレーナーとして
活躍してもらいたいと思います。

うれしいことに、ライフスキルト
レーニングはカンボジア政府からも
評価され、職業訓練センターの講
師向けにトレーナー研修を提供す
ることが決まっています。実現すれ
ば、トレーナーを通して数千人のカ
ンボジア人にライフスキルを届けら
れることになります。人との関係
を築き、自分を律し、問題を解決し
て前に進む力。前向きにワクワク人
生を送るための力。ライフスキルを
手にする人が増えたら、社会は大
きく前進すると確信しています。
そんな社会を実現するため、全員
で努力を続けていきます。



Story of Life skill training

All are Learners

学び続けるチームとして

作り手の女性たちの成長とトレーナーの成長



Written by
亀山 菜々子
Nanako Kameyama

2008年よりインターンとしてかものはしプロジェクトで活動を開始。大学院卒業後、2012年よりカンボジア現地駐在。ソーシャルエンバウメント部門マネジャーとして、SUSUではファクトリーの女性たちのケアやトレーニング等を担当。

常に前進する組織であり続けるため「All are learners(みんな学び合う)」という言葉で大切な哲学の一つに掲げている。女性たちが立ち向かう課題に、トレーナーとスタッフは寄り添い、お互いに学びを深めながら進む力を育んできた。

「最近、ナリ(仮名)の様子がおかしいと思う」。トレーナーであるスタッフのソチェットから相談を持ちかけられたのは11月頃。ある作り手の女性の、顔色や仕事をしている時の様子がおかしい。

多分、妊娠している——。カンボジアの農村では依然タブー視の強い婚前交渉。ナリは未婚、17歳。一体調悪い？ソチェットが話を聞きに行くと、虚ろな目でナリは答えた。「もう4ヶ月も(生理が)ない。」怖がる彼女に付き添った病院での検査結果は妊娠16週目。「なんで若い

のに妊娠しちゃったの。旦那さんは一緒にやないの。」村の医師の無頓着な発言が突き刺さる。問題を乗り越えようとする彼女たちを阻むものは想像以上に多い。お金のこと、今後の生活のこと、周囲からの評判のこと。「家族にどう伝えよう。母親は私のこと好きじゃないから、知ったらどうなるかわからない。相手と思われる人は連絡がつかない」「姉に言ったら多分近所に言いふらすと思う」。相談できる人もおらずナリは孤独だった。

ファクトリーでのトレーニングで学んだことを血肉にするには、実践が欠かせない。しかし実際の課題はいわば超難関応用問題。抵抗することの難しい社会のシステム、すなわちその地域の美徳だとか、規則だとか、人間関係だとか、個人を取り巻く大きな渦の中で出くわすものが少なくない。だからこそ、この渦に飲み込まれるのではなく本人が自身の人生を動かしていくしなやかさを身につけるサ

ポートをすることが、私たち教育チームの役目と認識している。

そしてその役割を遂行するのに重要なのはトレーナー陣の成熟だ。当初は「そんなのだめだね」「こうすべき」と、自身の「正しい」、社会の「正しい」から外れていると判断するような発言をしてしまうこともあった。それは彼らも自分の過去の体験や世間の正しさに評価をされながら生きてきたし、作り手の女性たちに期待を抱いているからこそではある。その反応に自覚的になり、ミッションに立ち返り、自分たちの役目を一緒に確認する練習を、トレーナーを含めた教育チームで繰り返してきた。いつもチーム会議で問うことは、ファクトリーで働く彼女たち本人が納得する選択ができたか。この事から彼女が次に進む学びを引き出せたか。私たちは本人の行動に善悪の判断を下さない。解決策のアイデアと一緒に考え寄り添う。最後は彼女の決定を応援する。正解のない場面で役

立つのはそうした心のあり方だ。

今回の件でトレーナーたちと考えたことは、まず工房が彼女にとつて安心できる場所でありたいということ。トレーナー陣が理解を示すことはもちろん、ナリと相談した結果、彼女が所属するチームに妊娠のことを共有することに決めた。仕事を進める上で、理解してもらうことが必須だからだ。動揺がなかったわけではないが、その翌日、チームメンバーの一人、ラン(仮名)は自分が妊娠中に来ていたワンピースを「この服、楽だよ」とそつとナリに渡した。理解してくれるメンバーに彼女もほっとした様子だった。

同時に、家族にも話していくことをナリは選んだ。おばあちゃんなら話せるかも——そういつた彼女だったが、そこから打ち明けるに至るまでは葛藤の日々だった。感づかれているのか避けられてしまう。「もうここをやめて、遠くに

行つたらいいかな。」時折嘆く彼女に寄り添い続け、最終的にナリと一緒に家族に話しに行くことになった。「思い返せば疑問な行動はあったけど、気づかなかった」母親はその場で泣き崩れた。しかしその後、家庭の中で母親と話す機会が増えたと彼女は報告してきてくれた。他にもたくさん課題を一つ一つ乗り越え、彼女はだんだん明るさを取り戻した。仕事にもより懸命に励み、なんと産休申請した当日の夜に女の子を無事出産。7月には復帰予定だ。

ナリのたくましさや周りの女性にも響き、教育チームメンバーの信念を深め、成長させ、家族の関係性にも少しずつ変化を与えていった。誰しもが課題にぶつかると、それに対応する正解もない。だからこそひとつひとつに本気で向き合い、一人一人から学ぶ姿勢を常にもつ。

All are learners——そんな、皆で学び高め合う素地を築いてきたチームだからこそ、この先困難に直面した時も、それを糧にし飛躍できると確信している。



LIFE JOURNEY

作り手と買い手の人生が温かく、
豊かに交錯する瞬間を夢見て

SALASUSU



SALASUSUが 目指すもの

2016年3月に産声を上げたSUSU。今年度は渋谷ヒカリエや玉川高島屋などに期間限定ショップを出店するまでに成長しました。足を運んでくださった皆さま、SNSのシェア等で応援くださった皆さま、本当にありがとうございます。出店を通して、商品クオリティは大手百貨店でも充分通用するという自信を抱いた一方で、自分たちの強みは何なのかを深く自問するきっかけともなりました。

再確認したのは、私たちはカンボジアのい草を紹介したいのではなく、ものづくりを通して作り手の女性たちに生きる力を育んでほしいのだということ。そのアイデンティティを忘れないよう、学校という意味を持つ「SALA」を名称に入れ、ブランドリニューアルを行うことを決めました。

新しいブランド、SALASUSU(サラスースー)のテーマという実感を抱いています。そして、購入してくださった方には、工房へのフリーパスチケットをお渡しすることにしました。いつかSALASUSUのバッグを片手に、カンボジアの工房を訪れてくれますようにと願いを込めて。作り手と買い手が顔を合わせたとき、どんな変化が起きるのか。その瞬間を楽しみに、私たちは商品を作りつづけます。

商品はい草だけではなく、日々の暮らしにも、特別な旅路にも寄り添うシンプル＆クリーンなデザインに。一つひとつに、作り手のスタンプを押しつけたラベルをつけています。スタンプを押すことで、女性たちは「自分の作ったものが世界の誰かに届く」



Written by
横山 優里
Yuri Yokoyama

2016年3月SUSU(SALASUSUの前身)の立上げを行い、ブランドマネージャーとしてSALASUSUの販売や広報を統括。

Written by
菅原 裕恵
Hiroe Sugawara

SALASUSUのプロダクトデザインを担当。カンボジアと日本を行き来しながら、目に見えない付加価値を追求したもののづくりを模索中。

SALASUSUの情報や
商品についてはこちら!

SALASUSU 検索
<https://salasusu.com>



2017年度のインド事業部

インドでも、 子どもが売られない 世界をつくる。

Written by 清水 友美 Tomomi Shimizu
インド事業部 ディレクター

行き場のない、
悲しみとともに

2018年4月インドに出張した時、今年に入って亡くなったサバイバーたちの死を悼む小さなセレモニーを開きました。

2018年1月27日、私たちが2013年から支援してきたカリナ(仮名)が殺されたという心が張り裂けそうなニュースが入ってきました。カリナは13歳の時に人身売買の被害にあい、2011年にレスキューされて村に戻ってきました。2013年9月、カリナに初めて会った時、とてもおとなしい彼女の隣にはお母さんがいて、彼女のお姉さんがまだレスキューされずに行方不明なので助けてほしいと泣きながら話していたのをよく覚えています。私たちはタフティッシュ事業の下で、2013年からずっとカリナを支援してきました。一緒に活動している弁護士が知能を最大限に使い、心を込めて支援し、カリナを売った加害者がようやく逮捕された翌週、彼女は小さな娘を残し、旦那さんに斬殺されました。そのニュースが届いてから、私の中で何かが停止してしまい、自分の中でそれをどう受け止めたらいいいのかわからなくなりました。日常生活はこなせるけれども、ふとした瞬間に涙がとまらない。私たちはタフティッシュ事業の下、Justice(正義)をサバイバーとともに勝ち取る事業をしているのにもかかわらず、なぜ彼女が殺されなければならなかったのか、それを防ぐことはできなかったのか、Justiceは一体何なのか。

その答えが欲しくて、現場ですつとカリナを直接支援してきたスタッフと話をしました。その中で見えてきたのは、カリナは旦那さんのことが大好きで、家庭内暴力がひどいから早く離婚しなさいという両親の願いも、両親に離婚を進めるよう頼まれた私たちのパートナー団体の働きかけにも応じず、旦那さんと一緒にいることを選んだ。人身売買の被害にあった自分の過去を知らながらも結婚してくれ、旦那さんにとっても感謝をしていた、彼のことがとても好きだった。そういうカリナの姿が見えてきて、私は行き場のない悲しみを覚えました。

For a world without child sex trafficking
and sexual exploitation.

Kamonohashi in

India

2017-2018

それぞれにとつての、特別な癒しの時間

そんな私の悲しみに共感してくれたシステムコーチの森川有理さんが、「友美さん、セレモニーしよう」と言ってくれ、このセレモニーが実現しました。そのセレモニーに参加していた時、こういう時間はとても良いなあと思えました。遠い国から、命半ばで途絶えた人たちのことを思い、自分たちの魂を吹き込んで準備してくれた人たちがいます。彼女の「生」を思う人たちがいます。助けられなかった苦しみと悲しみを涙を流しながら誰かに分かちてもらいたいというリーダーやソーシャルワーカーたち。静かにそれにそっと聞き入りながら、一緒に場を支えてくれるサバイバーリーダーたち。きっといろいろな想いがめぐっている、そんな彼女たちの凛とした横顔。みんなの悲しみや重い気持ちをふつと持ち上げ、前に進む力に変えていく、みんなにとつての「癒し」の時

世界を変えるのは「被害者」としての自分を乗り越えた、彼女たちの「優しい強さ」

サバイバーリーダーたちは自分の被害者としての傷を時間をかけて癒すことによつて、「被害者」というアイデンティティから自由になれた。だからこそ、彼女たちの「怒り」はとても優しく、まっすぐで、見ているものの心を打つのだと思うのです。間違つたもの（人が人を売るといふ行為）はちゃんと正す（罪を償う）でも、彼女たちのようなリーダーだったら、その先に、私は加害者たちとの真の和解の可能性があるのではないかと感じています。そして、そんなサバイバーリーダーたちを、もっと増やしていきたい

間。カリナが生きているときにそういうことができたらもつと良かったけれど、残された者たちが癒され、全うできなかった命の分まで、そんな悲しみのない社会を作つていきたい、凛として進む、温かさをもらったセレモニーでした。

「優しい強さ」を持ち

「被害者」としての自分を乗り越えた、彼女たちの強さ

彼女たちが傷を負った被害者からサバイバーとなり、そこからリーダーとして成長してきた姿をこれまで5年間見てきました。

私は彼女たちを見ていて、「優しい強さ」を持つている人たちだなと思います。自分が「被害者」であり「助けてもらうべき存在」であるという立場を抜けて、これ以上自分のような被害者を出さないために、何が必要なのか。それをまっすぐに捉えて声をあげる姿を見てみると、なんだか涙が出てきます。

い。それが、全うできなかった命の分まで優しい強さを持った社会を作つていくということなのではないか、と私は考えています。

子どもが売られない社会、そして優しい強さを持った世界をつくる

これまで私たちは、加害者を有罪判決にすることがもつとも重要だと考え、それを可能にするためのシステム強化を行ってきました。それは引き続きとても重要で、問題を本質的に解決できるための制

彼女たちを見てみると、成熟したりリーダーシップに必要なものを持つているなと思います。自分の中にある「被害者」としての悲しみ、鬱屈した想い、自分や相手を責める気持ちは、私たちの支援するプログラムの中で少しずつ整理され、受け入れられ、受け止められて、癒されていきます。その中で彼女たちはサバイバーからリーダーへと大きく変化していくのです。

学校でのいじめを例にとつて考えてみます。いじめた子は加害者、いじめられた子は被害者。被害者の子どもは学校へ通えなくなったり、自殺をしようすることもあります。その場合、いじめた方の「加害性」は確実に残ります。それはきち

度とシステム強化、そのために必要な調査や実験に引き続き力を入れていきます。

さらに2018年度、かものはしはサバイバーのリーダーたちを育て、彼女たちとともに、優しい強さをもつた社会を作つていくため、社会への働きかけを少しずつ始めます。彼女たちが自分のサバイバーというアイデンティティを超えてリーダーとして活動を始め、他の被害者やサバイバーたちと関係性を紡ぎ一緒に優しい強さをもつた社会を作つていく、そのために一緒に声を上げていく事業を始めています。

2018年2月、私たちが2015年9月から関わり続けてきた包括的人身売買法案に、やつと内閣の承認が下りました。2019年の5月に控える総選挙で内閣が改造される前に、新法

んと対処する必要がある。しかしいじめた子には、その子なりの理由があるかもしれません。もしかしたら、心に耐えきれないほどの傷があるかもしれない。違う視点から見ると、その子自身もあるいは「被害者」であつたのかもしれない。でもいじめられた子が、自分は「被害者」だと、その立場を動かないと決めてしまったら、加害者はどんな理由があつても、本意の意味では「聞いて」もらえず、もう「加害者」としてのレッテルを、外側からも内側からも「貼る」しか選択肢がなくなつてしまうと思うのです。その時、そのシステムは「加害者」「被害者」「救済者」という枠ががちりはめ込まれ、そこに関わる人たちは身動きがとれなくなつてしまいます。

の立法までこぎつきたい。なぜなら、今の法律下で取り締まることのできる人身売買犯罪には限界があり、それではサバイバーたちと私たちが手にしたい正義を手に行けるチャンスは万に一しかない。優しい強さをもつた社会に近づくためには、この法律を通し、彼女たちの声をあげられるチャンスを増やしたい。だから、私たちがものはしは、ずつとこの活動を続けてきた現地のリーダーたちとサバイバーリーダーたちと一緒に、全力で2018年度も走り続けていきます。

Written by
清水 友美
Tomomi Shimizu

インド事業部ディレクター。2年間のインド駐在を経て、2013年7月からかものはし日本事務所勤務。大学院修士課程修了後、国際機関や人道支援機関で開発援助事業に携わる。



2

社会の仕組みを 変える

The Issue / 課題

野放しの加害者(トラフィッカー)と 権利が守られないサバイバー

加害者が適切に罰せられ、被害者が適切な補償や行政サービスを受けられる、そのための仕組みが整っていないことが引き続き大きな課題です。広大なインドでは州をまたいで子どもが売られるため、行政や警察、NGOも州をまたいで連携し、捜査・裁判を進めることが求められます。しかし実際は、捜査が行われないことや、被害者を守るための法律がうまく適用されないケースも多くあります。それぞれの機関がうまく連携し、適切な対応を自律的にできていないため、サバイバーの権利や正義を守る仕組みが整っていません。

Our Approach / かものはしの取り組み

サバイバーが正義と権利を 取り戻すために

行政や警察、NGOが適切に機能し、州をまたいで連携することで、インドにおける加害者の捜査・裁判の仕組みや、被害者を支援する仕組みを変えていくことに取り組んでいます。現地パートナーと共に一人ひとりのサバイバーのケースに寄り添う中で浮かび上がってきた仕組みの欠陥を是正するため、それぞれの関係機関や社会に働きかけています。その結果、特定の地域で初めての有罪判決が出たり、サバイバーが国から多額の補償金を得ることができるなど、少しずつシステムに変化の兆しが出始めています。



1

サバイバーに寄り添い 共に声をあげる

The Issue / 課題

売春宿で受けた 心と体の傷

「いい仕事がある」「家族を助けることができる」と言われ、農村から都市にだまされて売られた女性たちは、レスキューされた後も長らく心の傷やトラウマに苦しみ、社会復帰が難しいケースがほとんどです。また、家族の元へ帰っても、売春に従事していたことに後ろ指をさされ、十分に稼げる仕事はなく、非常に苦しい状態が続きます。トラウマを乗り越えて自分を取り戻し、自らの人生を再び歩むには、多くの困難が待ち受けているのです。

Our Approach / かものはしの取り組み

被害者からサバイバー、 社会を変えるリーダー

被害にあった女性たちの心の傷が回復し、被害者ではなくサバイバーとして自分の人生を取り戻せるよう、一人ひとりに支援を提供しています。また、サバイバーたちが、これ以上自分たちのような被害者を出したくないと声をあげ、社会の仕組みを変えていくリーダーとして成長していくことをサポートしています。当事者が自ら挙げる声や自ら起こす行動は社会を変える大きな力になります。そのため、サバイバーに対するリーダーシップ支援などを同時に行っています。

カンボジアで問題解決を続けてきたかものはしは、
2022年までにインドでの問題解決を目指します。
大きく2つのアプローチを軸に、
現地のパートナーNGO、専門家・コンサルタント、
そしてサバイバーリーダーたちと協力しながら、
「子どもが売られない社会」をつくっていきます。

Topics in India Programme

2017年度は、これまで積み重ねてきた活動が成果として実り始めた1年でした。

社会の仕組みに変化の兆しが見え始める

これまで「点」として生まれていた成果が、継続的に出るようになり「線」となってきました。

Topic 07

人身売買を取締る、新しい法律が閣議決定！

2015年から注力してきた包括的的人身売買取締法案が、2018年2月に閣議決定されました。法律が通れば、州をまたぐ人身売買犯罪の捜査機関が設置されたり、サバイバーのリハビリを受ける権利が定められるため、問題解決が大きく進む可能性があります。今年度中に国会で審議されることを目指し、引き続きアドボカシー活動を続けていきます。



Topic 08

インドでのパートナーシップが拡大！

新たに3人の専門家とコンサルタント会社、4人の現地コンサルタントが加わり、現在13の現地NGO、18の専門家・企業・コンサルタントと連携して、インドでの事業を推進しています。様々な団体と連携することで、国のレベルから草の根レベルまで、多角的な事業を展開できるようになってきています。



サバイバーグループの動きが活発に

これまでTaftteesh事業と一緒に活動してきたサバイバーリーダーグループのUtthanとBandan Muktiが大きく成長を遂げ、活発に活動しています。

Topic 09

海外の財団と連携し、リーダーシップ育成を開始

イギリスの財団から資金協力を得て、新しい事業を始めました。自分の被害を乗り越え、サバイバーとして回復してきた女性たちが、同じように被害を受けている人々を支援する活動を始めました。UtthanやBandan Muktiのようなグループをさらに作っていくことを目指します。この先2年間で75人のサバイバーリーダーたちを育成し、彼女たちを通じて500人の被害者、サバイバーたちを支援していきます。



Topic 10

サバイバーリーダーたちがメディア対応

かものはしも注力してきた、新しい法律の重要性を広く訴えるため、サバイバーリーダーたちが国会議員に同意を求め、議員と共にプレスカンファレンスに出席し、法案を通してほしいと訴えました。その他にも地元メディアを集め、新法に期待することなどを直接メディアを通じて社会へアピールしました。リーダーたちのこの様子はテレビやFacebookを通じて報道されています。



Message from India

かものはしが共に活動しているサバイバーリーダーグループ「Utthan」が、先日発足から2周年を迎え、メッセージを寄せてくれました。



Utthanメンバーの力強い活躍に、いつもエネルギーをもらっています。

私たちが忍耐強く待ち、この道と一緒に歩む勇気を持ってくれたこと、そして、Utthanのメンバーをリーダーとして、この道を歩んでいく「友」として認めてくれることに心から感謝しています。Utthanが今日こんなに強くいられるのは、かものはしが私たちを信じてくれているから。そうやって信じてもらえるのは、私たちの周りにある関係性の中で、残念ながらほとんどないことだから、余計身に染みます。まだどうやって歩いたらいいかわからなかった時から、かものはしは私たちとずっと手をつないでいてくれました。そのことは、私たちが絶えず、ずっとかものはしに感謝をしていることです。本当にありがとうございます。

Topic 01

高等裁判所による歴史的な被害者補償判決！

人身売買被害者が補償金を受けられることはほとんどない上、加害者に有罪判決が出ていない場合に、補償金が支払われるケースは全くありませんでした。しかし今回、パートナー団体の働きかけにより、あるサバイバーの補償申請に「加害者が有罪でも無罪でも、被害者にとってその犯罪があったことには変わりない」と、高等裁判所が州に補償金の支払を命じました。加害者の状況に関係なく、被害者には「尊厳を持って生きる権利」があり、補償金を受け取る権利を国が認めたこの判決は非常に画期的です。



Topic 02

県知事への働きかけ、共感が県の仕組みに変化を

かものはしが一緒に活動するサバイバーグループUtthanが県知事に直接、人身売買問題の深刻性を訴えました。NGOではなく、サバイバーのリーダーたちが直接話に来たことに県知事は大きく共感してくれました。その結果、同地域でサバイバーが無償で病気の検査を受けられたり、学校での啓発活動に彼女たちが招かれるようになりました。県知事のみならず、他の政府関係者、警察、裁判官など、様々な立場の人にサバイバーが直接働きかけることで、仕組みに変化が生まれています。



Topic 03

2件の有罪判決！

2015年度に初めて有罪判決が出た県で、昨年度の1件に続き、2017年度は2件の有罪判決が出ました。2018年度にもすでに1件出ており、現在計5件。加害者を取り締まる仕組みに大きな変化が生まれてきています。

Topic 04

131名のサバイバーがIDカードを取得

日本の戸籍に当たるIDカードなしでは、基本的な行政サービスを受けたり銀行口座の開設ができません。政府への働きかけを通じ、私たちが支援する146人中131人がIDを取得し、行政の支援を受ける準備が整いました。

Topic 05

のべ359名のサバイバーに支援を提供！

今年度は、心理回復支援を21人、裁判支援を125人、政府サービスアクセス支援を113人、リーダーシップ育成を37人、教育支援を63人に提供しました。



Topic 06

ダンスムーブメントセラピー (DMT) の効果を確認

2015年に開始したDMTの効果測定を今年も実施しました。その結果、6つのトラウマ症状の改善が分かり、DMTのトラウマ回復への効果を実証されました。



人身売買撲滅に向けた、サバイバーのリーダーシップ育成プログラム

Survivors Leadership Programme



パートナー団体 BUP / GGBK / Sanjog / Utthan / Bandan Mukti 期間 2018年2月～2020年1月(2年間) 事業費 1億980万円(1ドル=110円)

サバイバーから社会を変える担い手としてのリーダーへ。新しい挑戦

タフティーシュ事業でサバイバーグループと共に人身売買問題と闘ってきた経験から、被害にあったサバイバーが社会を変えるリーダーに成長し、社会変革の担い手となっていく可能性を確認し、2018年2月よりサバイバーズリーダーシッププログラムが始まりました。被害にあった女性たちは「助けられるべき」存在としてみられがちです。しかし、適切な心の回復、同じような想いを持つ女性たちとのグループ活動、裁判を闘うためのエンパワーメントなどの支援を提供することで「自分のような被害者をこれ以上出たくない」と自ら立ち上がり、問題解決のリーダーとして活躍する女性たちが声を上げ始めました。サバイバーが正義・権利を取り戻すための仕組みを作るには当事者の声は不可欠で、またその声はとて大きな力を持っています。CIFF財団(Children's Investment Fund Foundation)の支援のもと、10のインドパートナー団体、2つのサバイバーグループと共に始めたこの事業では、4つのサバイバーグループを組成し、彼女らの声を社会の仕組みに反映することを目指しています。初年度はお互いの共通理解を深め、土台を作ることに注力。これまで活動を続けてきたサバイバーリーダーグループUtthanでは、リーダーたちが自ら3つの公益訴訟に関わったり、プレスカンファレンスで新法の必要性をメディアや国会議員に訴えるなど、活発な動きを見せています。リーダーとして力強く生きる女性たちを今後より多く輩出できるよう、全力で取り組んでいきます。



リーダーたちが今年度の活動結果を発表する

子どもが売られない社会の仕組みを作るプログラム

Taateesh



パートナー団体 Rescue Foundation / BUP / GGBK / Sanjog / Utthan 期間 2016年6月～2019年5月(3年間) 事業費 1億872万円(1ドル=110円)

様々な変化が継続的に見えてきた1年。包括的人身売買取締法案が閣議決定

2013年から開始したタフティーシュ事業は、かものはしのインド主要プログラムとして5年の節目を迎えました。この事業は、被害にあった女性たちが権利・正義を取り戻せるように、インドの中央政府や各州政府、各地区に働きかけ、捜査・裁判や被害者を支援する仕組みを変えていくことを目指しています。加害者を適切に逮捕する仕組みを作るためにもっとも重要視しているのは、包括的人身売買取締法案の制定です。2015年から追いつけてきた法案が2018年2月に閣議決定されたことにより、2018年はこの法案を確実に通すことができるよう、アドボカシーやメディアでの発信を強化していきます。また、一人ひとりのサバイバーのケース支援を通じて、そこから浮かび上がってくる仕組みの欠陥を是正することを様々なレベルで関係機関に働きかけています。公益訴訟や捜査内容への不服申し立てを行うことを通じて、システムがサバイバーにとって公平なものになることを目指し、働きかけを行っています。2017年度は、のべ260人のサバイバーを支援することができその結果これまで微々たる額しか被害者補償金がおいていなかった州で、サバイバーが自らの人生を再び歩む一助になる額の補償金が州から支払われるケースが出たり、継続的に行政サービスにアクセスできる事例が出るなど、点だった仕組みの変化が少しずつ線になってきています。



四半期に一度、チーム全員が集まるミーティング

人身売買撲滅のための政府諸機関・NGO連携促進モデル

Coordination Model Development

Partnership with



パートナー団体 STCI 期間 2017年3月～2018年4月(14ヶ月) 事業費 529万円(1ルピー=1.7円)

有罪判決が続き、連携による変化を感じた1年。自立化への道を歩み始める

かものはしはSave the Children India(STCI)と2015年1月よりマハラシュトラ州ナグプール県で、政府機関やNGOの連携強化を通じて人身売買犯罪を抑止するモデルを開発しています。加害者の捜査や裁判、被害者のリハビリと帰還には、警察、検察、裁判官、シェルター、弁護士など、多岐にわたる行政・司法機関が関与しているため、この問題の解決には各機関が役割を果たし、適切に連携することが不可欠です。そこで、警察や司法関係者への能力強化研修を実施するとともに、関係諸機関で月例会議を開催、個別のサバイバー事例に対し、各自が取るべきアクションや協働できることを話し合い、実践しています。結果、捜査・裁判・リハビリのプロセスの中で、恒常的に連携が見られるようになりました。そして2015年まで一度も人身売買犯罪の有罪判決がなかった同県にて、3年間で5件の有罪判決が断続的に出ており、司法システムが同犯罪への抑止力を発揮し始めています。事業の成果が出てきたいま、本モデルの分析を専門家と開始し、成功要因や改善すべき点の特定に取り組んでいます。分析過程で明らかになったのは、各機関の機能の向上と連携の陰には、現場で彼らに働きかけ続けているSTCIの存在が大きくあることです。今後は、STCIの関与なくとも、政府機関が自律的に連携し機能を果たしていくことに焦点を置き、同県にて人身売買犯罪への抑止力が安定的に発揮され続けることを目指します。



関係諸機関による月例会議

被害者の心理回復モデル

Dance Movement Therapy (DMT)

Partnership with



パートナー団体 Kolkata Sanved 期間 2017年10月～2019年1月(16ヶ月) 事業費 459万円(1ルピー=1.7円)

より多くのサバイバーに、より効果のあるDMTを届けることを目指して。

かものはしはコルカタシャンプドとともに、DMT(身体と心の深い結びつきに注目し、身体に働きかけることで、心の傷を癒し回復していくことを狙いとしたプログラム)をサバイバーに提供しています。DMTを受ける彼女たちの姿を見て感じたその効果を正しく把握し、多くの人に理解していただくため、2015年に国際的な評価手法を用いてDMTの効果測定を開始しました。2017年に2回目の測定を終え、不安や鬱など6つのトラウマ関連症状全てへの効果が実証されました。また、幼少期からの経験についてサバイバーたちが語った内容を分析し、DMTが効果を発揮しやすいサバイバーの特性も検証しました。データを用いた検証結果は、シェルター関係者のトラウマへの理解を深め、サバイバーに対するより効果的なサービスの提供に関心が高まったほか、インド国内外の支援団体にもDMTを広く理解してもらおう一助になっています。現在実施中の3回目の効果測定では、より精度高くDMTが生み出す効果と果たせる役割を検証することにより、その質的向上とサバイバーのニーズに応えるリハビリシステムの構築につなげることを目指しています。2017年度末からは、200人への提供を目指し10シェルターにてDMTを実施中です。一人でも多くのサバイバーが前を向いて自分の人生を取り戻していけるよう、質・量ともに向上したDMTを届けていきます。



DMTの実践者トレーニング

2017年度の日本事業部

For a world without child sex trafficking
and sexual exploitation.

Kamonohashi in

Japan

2017-2018



皆さまのご支援のおかげで、カンボジアの活動が自立でき、インドでも活動を継続できています。心から感謝を申し上げます。

2017年度

支援の輪は継続して
広がっています。

2017年度も日本での重要な活動である、広報・ファンドレイジング、経営管理の活動を行い、カンボジア及びインドの事業を実施することができました。あたたかいご支援をいただき本当にありがとうございました。

2017年度は、資金調達額の総計が2億円を超え、今年もカンボジアとインドでの活動に必要な目標としていた資金調達額を達成できました。サポーター会員は昨年度より2226人増えて6995人となり、2017年度も多くの方に仲間になっていただ

くことができ、大変嬉しく思っています。

また、広報の方法をさらに改善すべく、様々な挑戦に取り組んでいます。今までは活動報告会と総会を同じ日に実施していましたが、よりたくさんの方に参加しやすい雰囲気に参加していただけるよう、総会と活動報告の場を分けて実施しました。

対面だけでなくメールやSNS、WEBページなど、非対面のツール上での支援者の皆さまとのコミュニケーション方法も変更を重ねた1年でした。応援くださる皆さまからのお声を積極的に取り入れつつ、今まで以上に分かりやすく、読みやすくなるよう改善を続けています。現状でも

まだまだ十分ではなく、今後も改善や工夫を重ねていきたいと思っています。もしお気づきの点等あれば、ぜひお気軽に声をお寄せいただければ幸いです。

2018年度

活動内容を分かりやすく
お届けしていきます。

2018年度も引き続き、報告やコミュニケーション方法に改善を重ね、支援の輪を今まで以上に広げていけるよう、また皆さまに気持ちよく応援し続けていただけるよう、取り組んでいきます。具体的には今までのメールマガジンの改善や、ご希望の方へのメールマガジン以外の情報発信、会員の皆さまに限定の説明会実施の挑戦等、地道に取り組んでいきます。また、カンボジアの自立という大きな節目に、団体内で現状のミッションを見つめ直すことも継続して実施しており、かものはしが社会にどのよう貢献できるのかを引き続き検討していきます。今後もあたたかなご支援をよろしくお願い致します。

日本ファンドレイジング大賞を受賞しました!

2018年2月に日本ファンドレイジング協会主催の「日本ファンドレイジング大賞」を受賞しました。この賞は「人々に感動と笑顔を与えたファンドレイジングをしている団体」に贈られるものですが、今回の受賞はかものはしに様々な方法で関わり、カンボジア、インドの活動を日々支えてくださる皆さまのおかげで、私たちの活動が認められたのだと信じています。この栄えある賞をいただいたからと言っても道半ばです。まだまだたくさんの改善を重ね、現地の問題に貢献すること、支えてくださっている皆さまにとってより良い世界を作っていくことを日々努力することは変わりませんが、このように、私たちの活動が認められる機会をいただけたのは大変嬉しいことでした。



かものはしのホームページがリニューアルしました!!

2011年より活用してきたホームページを全面的にリニューアルを行いました!皆さまにぜひお伝えしたい、現地のニュース・ストーリーをお伝えする特集レポートや、これまでのかものはしの歴史を振り返るページなど新しいコンテンツも盛りだくさんです。スマホでも見やすいデザインにもなっています。ぜひこの機会にアクセスしてみてください!



スマホでも見やすくなりました!

寄付者の皆さま限定のイベントが始まりました!

いつも応援くださっている皆さまに感謝の気持ちを込めて、月に1度、限定イベントを実施しています。代表村田が、これまでの活動の歩みや、困難の中でも活動を続ける上で大切にしている想いを少人数でじっくりお話しします。少人数だからこそお話できるような、話もあります。皆様のご意見もぜひ伺いたいと思います。ぜひ足をお運びください!

社会人、大学生ボランティアコミュニティも活動中!



どちらのコミュニティも随時メンバーを募集していますのでお気軽にご参加ください!

かものはし ボランティア 検索

<https://www.kamonohashi-project.net/support/volunteer/>



東京マラソン2019チャリティ事業の寄付先団体に選ばれました!



東京マラソンチャリティでは、ランナー自身が選んだ団体に対して寄付をされた方の中で、ご希望の場合は、チャリティ活動をアピールしていただくチャリティランナーとして、東京マラソンに参加することができます。(ただし、定員になり次第終了)東京マラソン2019の開催日は2019年3月3日(日)です。当日はかものはしスタッフ、インターン、ボランティアが一丸となって、ランナーの皆さまを全力で応援したいと思っています。チャリティランナーとして、また当日のご声援で盛り上げるなど、ぜひご参加いただけると嬉しいです!詳細はホームページでお知らせします。



詳しくはホームページから!

スマホからもOK!

かものはしプロジェクト 検索

<https://www.kamonohashi-project.net>



SNSで最新情報をチェック!



かものはしプロジェクト



@kamonohashiprj



@kamonohashiprj

LINE@はじめました!



MILEY MISHE

MILEY MISHEとは、インドの言葉で「一緒になって」という意味です。様々な対話を重ね、みんなが一緒になって成長する時間になるようお願いを込めて、来日プログラム名としてこの名前をつけました。

インドのパートナー団体より、3人のスタッフが来日!

2012年より、かものはしと共に事業を実施しているコルカタシャンプドの実践者2人、インド現地のコンサルタント1名が、2017年9月に来日しました!サポーター会員の皆さま、寄付者の皆さま向けに様々なイベントを実施したり、かものはし内部でも、3人とお互いを深く共有する時間をじっくりとることができました。距離は離れていても、同じチームの一員として活動していることを改めて感じる事ができました。

DMT体験会

サポーター会員の皆さまとダンスムーブメントセラピー (DMT) を体験!

インドでサバイバーに提供しているDMTを体験しました!当日は、実践者2人のリードのもと風船や布を使いながら大きく体を動かし、実際のDMTの雰囲気を感じていただきました。体験会後は、かものはしスタッフを交えてのランチ会を実施し、サポーター会員の皆さまとざっくばらんに交流する機会を持ち、体が経験したことを言語化することでより理解を深める場とすることができました。参加いただいた方からは、実際インドで進めている事業の一つに触れ、身近に感じられた、スタッフと直接話すことができ、事業の理解が深まったなどのお声をいただきました。



ヤウバナ

日本で思い出を作ってもらおう企画でインターン生やボランティアが交流!

元/現インターン生やボランティアのみなでヤウバナ(ベンガル語で“若者”)というプロジェクトチームを立ち上げ、来日中の彼女たちと共に浅草観光やピクニックを実施しました!普段は一緒に活動することのないメンバーですが、「日本でワクワクや安らぎを感じてもらい、貴重な思い出を作してほしい」「若者同士であるからこそその繋がりを持ちたい」などの目的を持ち、約半年にわたって定期的に話し合いを進めて準備を進めました。当日は言語の壁など大変なこともありましたが、お互いが感謝の気持ちを述べ合うことができ、素敵な関係を築くことができました。



支えてくださった企業・団体の皆さま

ASAAMI アサガミ株式会社

ain

公益財団法人味の素ファンデーション



Earth Lead Attain Co., LTD.
アースリードアテイン株式会社

ABeam Consulting®

アビームコンサルティング株式会社

AVON
the company for women

エイボン・プロダクツ株式会社

MFS

MFSインベストメント・マネジメント株式会社

OAK
FOUNDATION

公益財団法人
かめのり財団
The Kamenori Foundation

cazzelini

株式会社キャセリーニ

Cleovora
クレオヴォラ

クレオヴォラ株式会社

JICA
ジャイカ

子どもプラス株式会社・
子どもプラスホールディングス株式会社

Sixth sense Lab.
Healthy Happy

シックスセンスラボ株式会社

Jaopa

株式会社ジャクバ

Johnson & Johnson
FAMILY OF COMPANIES IN JAPAN
ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会
Johnson & Johnson Contributions Committee

CIFF CHILDREN'S
INVESTMENT FUND
FOUNDATION

新日本管財株式会社
互助会

帝國製薬株式会社

TERU
TERU

株式会社テル・コーポレーション

堂本

堂本製菓株式会社

株式会社
トラストファーマシー

なごみ診療所



公益財団法人日本国際協力財団

環境と平和のNPO
ネットワーク
『地球村』

People Focus Consulting

株式会社ピープルフォーカス・
コンサルティング

吉村ホールディングス
株式会社

NEVER SAY NEVER
ロート製薬

ロート製薬株式会社

アサヒワンビールクラブ / アネス株式会社 / 株式会社あらえびす 薬しべ共社 / アルファサーティスリー株式会社 / インフォテリア株式会社 / 株式会社
ウィズグループ / 国際ロータリークラブ第2790地区 浦安ベイロータリークラブ / 国際ロータリークラブ第2790地区 浦安ロータリークラブ / 株式会社エイチ・
アイ・エス / 株式会社HRインスティテュート / FSX株式会社 / MS&ADゆにぞんスマイルクラブ / 株式会社エルフ商事 / 株式会社エルローズ / 株式会社
キッツ / キュービーグループマッチングギフト QPeace / 有限会社居宅介護支援事業所・愛101 / 高德院 / 宏和製作株式会社 / 国際ソロプチミスト
東京・東 / 税理士法人古田土会計 / 株式会社木風 / 株式会社ジョイメイト / 新日鉄住金エンジニアリング株式会社 / 杉並区立杉並和泉学園 / 住友
生命保険相互会社 / 世田谷聖母幼稚園 / ゼロトウワン株式会社 / センコー株式会社 / センチュリー法律事務所 / 有限会社ソーシャルベンチャーキャピタル
アソシエーション / 有限会社ソルゾ / 株式会社タカゾノ / 株式会社ダブルエーホールディングス / 有限会社ティスバシオ / 有限会社テニスピアジュエ /
天S株式会社 / 東京お茶ノ水ロータリークラブ / 東京ビジネスサービス株式会社 / 株式会社東横イン / トムソン・ロイター・ジャパン株式会社 / 株式会社
永屋 / 株式会社ナリング・クリエイティブ / 一般社団法人日本弱酸性美容協会 / 日本リユースシステム株式会社 / ハウジングスカイ株式会社 / 浜野工業有
限会社 / ピセ株式会社 / 株式会社ビーフラット / 医療法人ひまわり会 / 医療法人福智会 / 富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部 / 株式会社ブラザー
ズ / 株式会社古木企画 / 株式会社フレアス / 株式会社プロミッション / ペイトータルサービスジャパン株式会社 / 株式会社ヘリオストーム / 株式会社
丸新プロテック / 森屋建設株式会社 / 株式会社リオトラスト / ロングブラックパートナーズ株式会社 / ワタベウェディング株式会社

※五十音順・敬称略 ※10万円以上のご支援をいただいている法人、団体の皆さまを掲載しております。

技術協力 ※五十音順・敬称略

アビームコンサルティング株式会社 / 油屋マネジメントコンサルティング / 一般社団法人イノラボ・インターナショナル / 株式会社ウエイクアップ/CRRジャパン / NPO法人
SROIネットワークジャパン / 株式会社オール・アウト / 株式会社オウケイウェイブ / 株式会社カルミナ / グローバルセンセーション / Crescendo / コインチェック
株式会社 / 株式会社コムニス / サイカンパニー / ソフトバンク株式会社 / NOSIGNER株式会社 / 株式会社バリュアップックス / Bloom Life / 株式会社ビーブル
フォーカス・コンサルティング / 株式会社マルケト / 武蔵野大学社会福祉学科 / モリソン・フォスター外国法事務弁護士事務所 / ヤワー株式会社 / 学生団体ゆるかも

応援メッセージ



奥田 浩美さん

株式会社ウィズグループ
代表取締役

私の著書の中にも書いていますが、私自身が30年ほど前に
ムンバイで、売られてくる女の子たちの支援の現場にいた
ことがあります。そういう現場から離れてしまっている今、挫折
してしまった若い頃の自分を思い出しながら、かものはしプロ
ジェクトを支援することは、若い時代の自分自身のチャレ
ンジを応援しているような気持ちになります。こういう支援
がいなくなる未来を目指しつつ、かものはしプロジェクト
を応援します。



川嶋 あいさん

シンガーソングライター

この国で暮らしていると忘れそうになること、知らずにすんで
しまうこと、その一つ一つに真っ正面から向き合い、見落と
さずに思いを巡らせ、かものはしさんは走ってきた。見えにく
い多くの子どもたちの過酷な運命と戦うために、ありったけ
の情熱とものすごい勇気をそこに注ぎ込んで…かものはし
の皆さんがこれまで残してきたこと、生き方は今、確かに1つ
の長い長い道になって、未来までつながっている。その道を、
私も共に見つめて追いかけて、そして歩いていきたい。



南場 智子さん

株式会社ディー・エヌ・エー
代表取締役会長

自分ではどうすることもできないような大きな問題が世の中
には多くあります。それを解決することを理想で終わらせ
ず、自分の日常からは遠く離れた出来事と流すことなく向
き合い、一歩を踏み出し続けている姿勢が立派だと思います。
たとえ向かうテーマは異なっても、大きなビジョンに向
かって小さくても一歩を踏み出す、その姿と結果は多くの人
を勇気づけ、励ますことができるパワーを備えているはずで
す。これからも応援しています。



安淵 聖司さん

ビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社
代表取締役社長

社会をより良くしたいという思いは誰にでもあります。その
思いを遠くまで届けられる人は少ない。かものはしの素晴ら
しさは、一見遠くにある問題を、見過ごすことなく、「自分の
こと」として受け止め、原因を突き詰めて、実際に解決策を
提供するところです。進化し、前進していくところです。このよ
うな志、実行が広がっていけば、社会は確実に良くなります。
この活動がもっと広がるよう、これからも応援を続けます！



Hisham Mundolさん

ビシャム・ムンドル
Children's Investment Fund Foundation (CIFF)
チャイルドプロテクション担当
エグゼクティブディレクター 兼 インド代表

かものはしはとても特別な団体です。自らの信念に忠実で、
問題解決に強い情熱を持っています。自らが問題解決に対し
て効果的に動いているかを常に考え、行動している姿が深く
印象に残っています。またかものはしは明確な戦略を持ちなが
らも、謙虚であり続ける組織文化とスタッフを有しており、
若くてエネルギーがあります！子どもの商業的性的搾取の問
題を解決するために、かものはしと互いに学びあい、互いに寄
りかかることのできるパートナーでありたいと思っています。



Chea Hengさん

チェー・ヘイン
Anti Human Trafficking Juvenile Protection
(AHTJP)
チーフディレクター

カンボジアで「子どもが売られる問題」の被害はとて少なく
なりました。かものはしが資金提供してくれたおかげで、警
察官はトレーニングを受ける事ができ、どのように加害者を
逮捕し、どのように被害者にインタビューするかを学ぶ事が
できました。かものはしが他の団体と違うのは、資金を提供
するだけでなく、常に活動に参加し、一緒に活動を支援してく
れるところです。これからも同じ国で活動する仲間として、頑
張っていきたくです。

かものはしのスタッフ

カンボジア事務所



カンボジア事業部

FAD:財務・総務部門

Chheng Kimhorn / Khiev Sopheap

S&M:セールスマーケティング部門

Bran Lek / Chhan Danet / Kin Borey / Nget Saret
Nov Sokserey / Phon Channa / Som Koemsay
Thea March / Thy Chamroeun / Vai Cham Roeun
菅原 裕恵 / 橋本 沙耶加 / ミン 美和子 / 横山 優里

Social Empowerment:ソーシャルエンパワメント部門

Khloeut Sochet / Khorn Dina / Sor Chhein
Vorn Sokuntheary / 亀山 菜々子

HR:人事部門

Ouk Onn / Sdoeung Sopheap

Production:生産管理部門

Chheang Saleap / Chran Heng / Kath Channa
Sok Touch / Sor Chhoy / Sot Sophan / Suon Sanh
Suong Vuthi / Vit Vanny / Voeruk Haun

コンサルタント

青山 直子

パートタイムスタッフ

Kong Savorn / Ry Ponlok / Seuy Samith

現地インターン

Alicia Chen / Hannah Louise / Shin-Yi, Lu
Vivian Chiehwen Lee / Yi Chia Chen / 上野 開
濱田 真也 / 光野 静 / 村松 有紗 / 渡邊 和彦

インド事業部

スタッフ: 清水 友美 / 田口 陽子 / 手嶋 三奈美 / 富田 晃子

インターン: Anna Spivack

現地スタッフ: Anustoop Bhattacharya

Mahendrasingh M Sengar / Manashi Naik

Priyanka Biswas / Roop Sen

Saroj Kumar Pattnaik / Uma Chatterjee

日本事務所

共同代表

村田 早耶香 / 本木 恵介 / 青木 健太

広報・ファンドレイジング

スタッフ: 小島 瑞代 / 草薙 直基 / 後藤 愛美 / 野満 明子
早瀬 真理絵

インターン: 池上 香菜子 / 伊澤 春菜 / 梅田 瑞香

海老澤 美幸 / 大坂 葵子 / 勝原 菜月 / 加藤 拓 / 金子 愛莉
金子 達也 / 栗田ひとみ / 下條 珠恵 / 進藤 怜香

鈴木 大悟 / 関根 渉 / 高増 宏一 / 林 良子 / 二重作 亮太
福井 里佳 / 保坂 光葉 / 松永 直樹 / 松丸 淑子 / 宮津 真帆
湯川 拓海

経営企画・管理

スタッフ: 青木 哲生 / 岡本 梓 / 辻 桂子 / 樋山 真希子

日本CF商品販売

インターン: 梅田 瑞香 / 佐々木由果 / 高増 宏一 / 中瀬 千恵
日野原 恵 / 山本 由隆 / 渡邊 和彦

2017年度のお礼とご報告



共同代表

村田 早耶香

Sayaka Murata

皆さまのあたたかいご支援とともに、
次はインドで問題解決を目指します。

ついにカンボジアで子どもが売られる問題がなくなり、カンボジア事業はNPO法人SUSUとして自立しました。これまで力を貸してくださった皆さまに、心から御礼申し上げます。また、インドでは問題解決に向けて新法を成立させようとする動きや、サバイバーリーダーシッププログラムも始まっています。この動きを加速するために、ぜひ引き続きお力をお貸しください。また、共同代表の一人として、組織で働く人やお力を貸して下さる方が、今以上に、働いて良かった、支援して良かったと思ってもらえる組織にしていきたいです。そのためにリーダーとして更に成長したいと思えます。これからも当団体をどうぞよろしくお願いいたします。



共同代表

青木 健太

Kenta Aoki

皆さまのおかげでカンボジア事業の自立を実現できました。
今後は新しい立場で関わっていきます。

16年務めた共同代表を3月に卒業し、関わり方を変えるときが来ました。この欄で挨拶を書くのもこれが最後になります。これまで当団体、特にカンボジアの事業を応援していただいた皆さま、本当にありがとうございました。応援して下さった仲間の皆さまの支えのおかげで、これまで歩み続けることができました。今後は自分自身を育ててくれた恩返しも含めて、かものはしが追求するミッションに、これまでの経験を活かし1人の理事として貢献していきます。特にインドに活動を集中した後、かものはしがどのようにその活動を広げていくのか、それを考える重要な時期に来ていると思います。その活動の進化や変革を支えていきたいです。カンボジアで今後も活動を続けていくSUSUを含め、ぜひ温かく見守っていただければと思います。



共同代表

本木 恵介

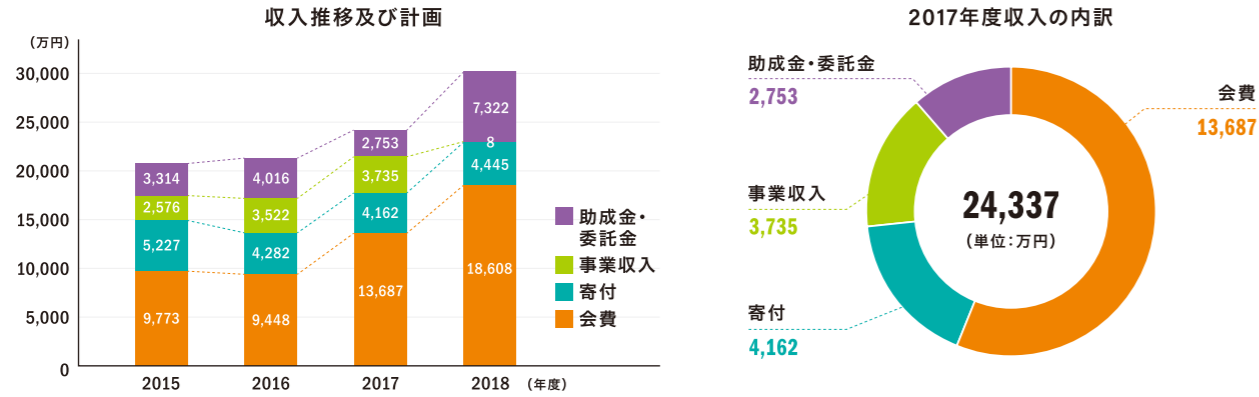
Keisuke Motoki

より広い視座、歴史的な観点から
ビジョン・戦略を再整理してまいります。

「早く行きたければ一人で、遠くに行きたければ皆で行け」ということわざがあります。カンボジアで、子どもが売春宿に売られない社会がつくられたのはまさにこのことわざ通りだと感じています。国際機関、NGO、カンボジア市民・政府など様々な人たちが努力した成果だと考えています。みんなで協力すればよりよい社会になっていくのです。インドにおいても、同様に実現していけるように努力していきます。かものはしのサポーターの皆さま、インドのNGO、政府、サバイバーリーダー、海外の財団など多くの方と協力してまいります。また、今年度は、インド事業を推進すると同時に、これまでの経験を踏まえて、かものはしをより広い視座、歴史的な観点から捉えなおし、社会にさらに貢献できるようビジョン・戦略を再整理していきたいと思っています。引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

2017年度報告及び2018年度計画

収入推移及び計画

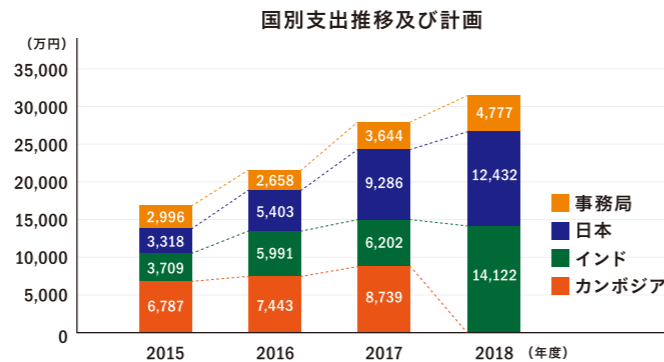


2017度も収入は2億円を超え、カンボジア・インドの活動を滞りなく実施することができた。特に会員会費が好調に推移し、1億円を突破したことが全体を下支えしている。2018年度は事業収入がカンボジア事業譲渡に伴い激減するものの、引き続き会員会費の増加、また海外財団からの助成金の増加により、全体の収入増を見込んでいる。問題解決を加速するための中長期計画を立案した結果、インドにおいて資金がさらに必要であると結論が出ており、会員募集のためのWEB施策は引き続き積極的に実施し、会員会費を伸長させる予定。

収入内訳については、サポーター会員は大幅に増加し、6,995人(2018年3月末現在)となった。継続している会員募集のためのWEB施策を2017年度も順調に実施できていることが好要因であり、2018年度も本施策を堅調に進めることに注力する。自己財源比率は89%と引き続き高い割合で推移している。

国別支出推移及び計画

事業譲渡に伴い2017年度でカンボジアへの支出は終了。インドへの支出に関しては、2017年度は前年比で1.5倍に増やすことができた。また2018年度はインドへの支出を2017年度よりさらに1.6倍に増やし、より一層問題解決を進めていく。このインドにおける事業規模の拡大に伴い、体制面の強化を実施する。具体的にはインド及び事務局の強化と働き方に関する投資を予定している。



会計監査の実施について

当法人では第14期より会計監査人による外部監査を始めました。監査対象たる財務諸表及び監査報告書はホームページに掲載しておりますので、ご確認ください。今年度の会計監査の結果に関して、財務諸表等が、すべての重要な点において、財務諸表の注記に記載された会計の基準に準拠して作成されている旨の意見を頂戴しております。

2017年度 財務会計報告

1.活動計算書

(単位:円)

科目	14期(2017年4月1日～2018年3月31日)			15期(2018年4月1日～2019年3月31日)	
	当初計画	実績	計画達成率	計画	前年比増加(%)
経常収益					
受取会費	126,573,000	136,866,928	108%	186,081,193	36%
受取寄付金	43,683,036	41,619,885	95%	44,451,118	7%
受取助成金等	33,435,615	12,946,781	39%	73,215,076	466%
受託事業収益	6,005,230	14,584,861	243%	0	-100%
事業収益	58,536,070	35,737,268	61%	0	-100%
その他収益	1,003,320	3,069,344	306%	1,777,600	-48%
経常収益計	269,322,271	246,436,734	92%	305,604,987	24%
経常費用					
事業費	82,900,615	67,401,895	81%	0	-100%
管理費	7,990,120	19,493,813	244%	0	-100%
その他費用	66,288,156	36,146,278	55%	107,403,454	197%
事業費計	232,990,507	196,899,054	85%	231,723,587	18%
管理費計	68,393,845	81,545,564	119%	81,657,483	0%
経常費用計	301,384,352	278,444,618	92%	313,381,070	13%
当期経常増減額	-32,062,082	-32,007,884		-7,776,083	
当期正味財産増減額	-32,062,082	-32,007,884		-7,776,083	
前期繰越正味財産額	117,558,214	117,558,214		85,550,330	
次期繰越正味財産額	85,496,132	85,550,330		77,774,247	

※第14期の活動計算書において、当期正味財産増減額が約3,200万円のマイナスとなり、結果として次期繰越正味財産は8,555万円となりました。なお、当法人の現預金残高ポリシーで現地の活動資金が十分に賄える6ヶ月分相当を目安として保持することが適当と考えており、その水準以上の残高を保持しております。

2.貸借対照表(2018年3月31日現在)

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
現金預金	108,355,964	未払金	10,093,358
売掛金	53,970	未払法人税	70,000
未収金	17,099,357	買掛金	1,112,222
製品	4,440,334	前受助成金	36,296,497
原材料	1,186,364	預り金	3,942,261
仕掛品	372,357	流動負債計	51,514,338
前払費用	3,810,983	負債の部 合計	51,514,338
流動資産計	135,319,329	前期繰越正味財産額	117,558,214
建物	723,971	当期正味財産増減額	32,007,884
車両運搬具	29,568	正味財産の部 合計	85,550,330
投資その他の資産	991,800	負債及び正味財産の部 合計	137,064,668
固定資産計	1,745,339		
資産の部 合計	137,064,668		

監事監査報告書

2018年6月21日
認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト
監事

認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト 理事長 本木 恵介 殿

私たちは、2017年4月1日から2018年3月31日までの第14期の貸借対照表及び活動計算書(「実績」部分に限る。)について監査を行いました結果、会計帳簿と一致し、法人の財産及び正味財産の増減の状況を正しく示していると認めます。

監事
山口哲朗
山本龍太郎



この年次報告書は、
サポートしてくださっている
印刷会社のご協力により
無償で印刷して
いただきました。



子どもが売られない世界をつくる
認定NPO法人 **かものはしプロジェクト**

団体名	認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト
住所	〒150-0012 東京都渋谷区広尾5-23-5 長谷部第一ビル402
TEL	03-6277-2419
E-mail	info@kamonohashi-project.net
Webサイト	https://www.kamonohashi-project.net

かものはしプロジェクト

検索



※かものはしプロジェクトは、被害者のプライバシーと意思を尊重し、
被害者個人が特定される写真は使用いたしません。
また写真を使用する際は本人の許可をいただいております。